

JPHMA
コンGRESS

禍事(天災、災害、疫病、戦争)から学び、かしくく生き抜くホメオパシー

感動、感動の連続

オンライン3400名参加に を含めて

第21回のJPHMA(日本ホメオパシー医学協会)コンGRESSが、10月3日、4日の両日、「禍事(天災、災害、疫病、戦争)から学び、かしくく生き抜くホメオパシー」をテーマにChhome東京校、名古屋校、大阪校の各ライブ会場及び自宅参加者とオンラインで結び、一般公開の形で開催した。参加者は3400名を超えた。コンGRESSは、最新の講演に学び、活動の成果を症例発表で披露する学術大会であり、また、会員が集って互いの研鑽をたたえ合い旧交を温める場でもある。今回の大会では、海外来賓として、インド政府のAYUSH長官であるDr. ラジ・クマー・マンチャンダ氏による「インドのホメオパシー最新情報」、米国のベストセララー作家であり、映画製作者であるジェフリー・スミス氏による「ラウンドアップの影響、新GMOによる生存の危機」の講演が行われた。

相次ぐ症例発表、最高潮に

会場には開場時間前から来場者が並び、主催・協賛各団体がコンGRESSに合わせブース出展し、農場の野菜や加工食品、化粧品や書籍などの販売コーナーなどを設け、お祭りムードを盛り上げた。開会宣言を行った後、松尾敬子大会長と由井寅



大会の席上挨拶する松尾大会長



挨拶する由井大会長



マンチャンダ長官

Dr. ラジ・クマー・マンチャンダ(テリー連邦直轄地政府 AYUSH長官)

ホメオパシー哲学を持つ科学だ

AYUSH省 マンチャンダ長官

伝統医学を統括するAYUSH省のマンチャンダ長官は、新型コロナウイルスでは81%が軽度の症状であるにもかかわらず、残りの19%が深刻な重症状態になると、その差は免疫力であると明言され、老若男女が安全に使用できる

子名譽会長がそれぞれ開会にあたって挨拶を行った(1面に掲載)。早速、症例発表に、い



フラワーエッセンスを語る東昭史氏

ずれの症例も驚くような改善をしていくもので、発表する人も聞く人も真剣そのもの。終わると拍手。どれを取り上げたらいいのか分からなくなるほど素晴らしいものに、「摂食障害チューイングと尿路結石が改善し、新たな人生を踏み出したケース」と題して日本ホメオパシーセンター札幌西口の佐藤文子ホメオパ

「真剣勝負の面構え」発表者は真剣勝負の面構え。緊張感漂う中、次々と色々な病気が改善していく様子を分り易く説明していた。

解した4歳女児痙攣ケース(道繁良日本ホメオパシーセンター島根安来)、「ジェムシエモ・フラワールエッセンス、鉍物と植物に秘められた癒やしのカ」4つの症例(片山敦子同練馬平和台)、「老猫の慢性腎不全が改善したケース」(水野和子同練馬平和台)、「絶望からアルコール中毒と認知症症状になった義父の魂を救ったZENホメオパシーと言葉のレメディー」(工藤聖子同東京渋谷駅前・千葉船橋本町・名古屋金山)と続き、JPHMA、JPHF認定証授与式・記念撮影を行い、休憩に。

また、新型コロナウイルス対策として、ホメオパシーによるセルフケアで免疫を高めることの重要性が勧告され、様々なホメオパシーのレメディーが使用されている中で、Os. Puls. が最も使用頻度が高い事がインド国内の各病院、研究機関との連携により判明している。また、インドでは自分の症状に合うレメディーをチェックするだけで選べるアプリも開発されている。最後に、ノーベル文学賞受賞のラヒンドラナート・タゴールの言葉が紹介された。「ホメオパシーは合理的な哲学を持つ科学だ」。

午後からも症例発表が続き、「子宮筋腫、構築性側溝症が改善されたケース」(佐井明花JPHMA認定ホメオパス)、「シェークレン症候群、自己免疫疾患とホルモンの関係」(井手麻子日本ホメオパシーセンター山梨八ヶ岳)と続き、その後、海外来賓講演としてDr. ラジ・クマー・マンチャン

「潜在意識の悪感情が解放されると共に卵巣嚢腫が消失したケース」(岡本 祥子同東京吉祥寺御殿山)、「20代女性ZENホメオパシーで幸せに生きられるようになったケース」(菊田 雄介同東京総本部)と続き、その後、日本豊受自然農の農業従事者から農業事例発表が行われた。

次に豊受会員によるホメオパシー体験発表が行われ、由井寅子名譽会長の基調講演が行われ、トーク&パネルディスカッションを行い、一日目の総評を行って終了した。体験発表は、それぞれ人生どん底にはまってしまっってホメオパシー相談会で蘇ったというもので、多くの人に感動を与えているものだった。



由井名譽会長と松尾大会長と健闘をたたえあう

さらに症例発表が行われ、「ホームキットの活用」(スズメバチに刺された際のレメディーでのケア)、「佐藤 美登里認定のアミリーホメオパス」、「心室中隔欠損が治療し、疲れやすさが改善した中学生のケース」(大阪順子Chhome7期卒業)、「食医農同源の暮らしが自己治療力を高める可能性?交通事故による脳内出血の改善」(乳癌術後の経過?)、「片山里美日本ホメオパシーセンター(石狩当別)が行った後、国内来賓講演「健康・環境を破壊する遺伝子組み換えの最新バージョン「ゲノム編集」は何をもたらす?」種苗法改定は何を意図しているか、未来を作る自然農法はどう拡げる?」と題して印鑑智哉世界の食問題研究家が詳しく解説した。

松尾敬子大会長講演は「様々な疾患症状の改善における肝機能の関りについて」と題して行った。引き続き、豊受会員による体験発表を行い、由井寅子名譽会長の基調講演と続いた。

最後にトーク&パネルディスカッションを行い、閉会セレモニー(大会総括挨拶、閉会宣言、ホメオパスの歌で全日程を終えた。

印鑑氏とのトーク